

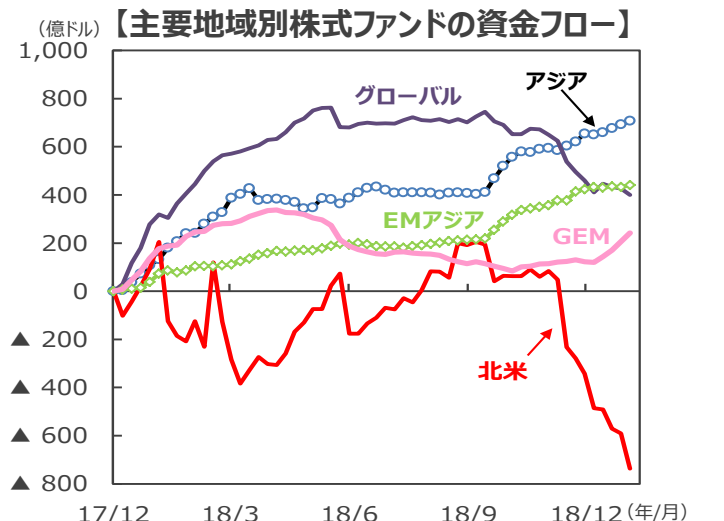
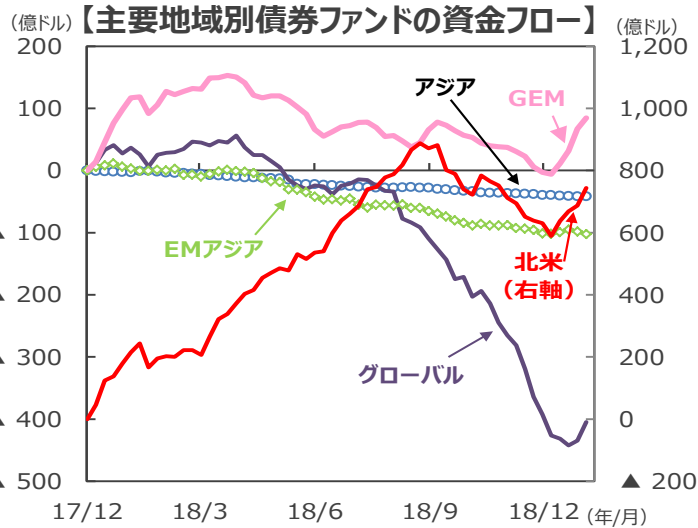
今日のトピック 世界の「投信マネー」(2019年1月) 債券ファンドと新興国株式ファンドへ流入

債券ファンドは再び流入超へ

- 投信マネー全体の流れを見ると、2019年1月は▲89億ドルと5カ月連続の流出超ですが、2018年12月の▲471億ドルから大幅な減少となりました。
- 中でも債券ファンドは+246億ドルの流入超と前月の▲439億ドルから一転して、大幅な流入超となりました。その他のファンドは、オルタナティブファンドが+34億ドル(前月▲43億ドル)、バランスファンドが▲64億ドル(同▲275億ドル)、株式ファンドが▲142億ドル(同▲826億ドル)、MMFが▲163億ドル(同+1,113億ドル)です。なお、MMFは4カ月ぶりの流出超でした。
- 債券ファンドの内訳を見ると、「北米」が+154億ドルですが、新興国市場全体に投資する「GEM(注3)」が+90億ドルとなりました。世界的に金利先高観が低下する中で債券ファンへの資金流入が大幅に増加しました。

株式ファンドは「新興国」が流入超

- 株式ファンドは▲142億ドルですが、内訳を見ると、「先進国」が▲275億ドルと引き続き流出超となったのに対して、「新興国」は+133億ドルと4カ月連続で流入超となりました。特に新興国市場全体に投資する「GEM」が+123億ドルと流入ピッチが加速しているのが目立ちます。「EMアジア(注4)」も+8億ドルとわずかですが流入超となりました。一方、先進国では、「北米」が▲251億ドルと大幅な流出超が続いています。こうした中、「日本」を含む「アジア(注5)」は+56億ドルと引き続き流入超となりました。



(注1) EPFRグローバル：米国に本社を置く金融商品の調査会社。2018年12月末現在31.6兆ドル規模の世界のファンドの資金フローデータを持つ。
(注2) データは2017年12月～2019年1月。週次ベース。2017年12月からの累計。
(注3) 「GEM」はGlobal Emerging Markets(世界の新興国市場全体に投資するファンドの総称)。
(注4) 「EMアジア(新興アジア)」は中国、インド、韓国、台湾、インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム、パキスタン、バングラデシュ。
(注5) 「アジア」は日本、豪州、ニュージーランド、香港、シンガポール。
(出所) EPFRグローバルのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここも
チェック!

2019年1月31日 FRBは金融引き締めを終了を示唆(2019年1月)
2019年1月29日 楽観的な見通しの低下が報告された米『ページブック』

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。